昭和五十一年二月二十二日

第七十二回　史跡めぐり資料　理事

（埼玉古墳と前玉神社）　日置宗一氏

越谷市郷土研究会

埼玉古墳と前玉神社

越谷市郷土研究会　日置宋一

武蔵国のなかでも大きな古墳の最も多く集っているところは埼玉県行田市埼玉の古墳であろう。埼玉という部落は今でこそ行田市に編入されているが以前は埼玉郡に属する大きな古村で郡家の所在地であった。正倉院文書戸籍帳、山城国愛宕郡雲下里計帳、神亀三年（七二六）に前玉郡と記した万葉集には、佐吉多万。延喜式神名帳にもサキタマと訓じている。

※　※　※

今行田市の町はづれから東南北本線に通ずる道を二キロも行くと道の両側稲田のなかに古墳が点々と横わっているのが視界に入ってくる。それらの古墳のうち、主なるものは、左手三百メートルほどに丸墓山と称せられる円墳がある。円墳としては日本でも他に類例を見ない大きな古墳をあげる。（現在では前方後円墳と誤用される。）高さ十六メートル、径一〇〇メートル、周囲三〇〇以来ある。頂上は雑木が茂り見晴しが良い。丸墓山の東方三百米のところには将軍山と称せられる前方後円墳がある。この古墳は明治二七年発掘され石廓を発見されたが石廓は穿孔長殺の両端に易刑石を以って築かれ天井は巨大なる秩父石にて蓋をしてあったという。又出土した遺物もおびたゞしい数にのぼったといわれる。

丸墓山の東南に稲荷山古墳があり先年発掘され山頂の隋朝墓形が顕現されている。（将軍山古墳出土品と共に出土品は資料館に展示）右手に大きな前方後円墳が眺をめぐらして横たわっている。二子山といわれており全山低い樹林に被われ完全な原形

をとどめている。さらに県道を渡ると相対する位置に鉄砲山と称せられる前方後円墳がある。鉄砲山と称せられるわけは、江戸時代に武士がこの辺で砲術演習場としていたことがあるからである。鉄砲山の東方百メートル程のところに武内社の前玉神社が鎮座しているが、この前玉神社も社殿が古墳の上に位置しているのである。この古墳は後世いちじるしく変形され原形をとどめていない。

神社宮司の談によればこの古墳はもと前方後円墳であったらしいとのことである。新編武蔵風土記稿は当時に関して次のように記している「社地の様 平地の田畑中より突出せる塚にて周り二町程、高さ三丈余、四方に喬木生い茂う 頂上僅か十坪ほどの平地にして、そこに社を建つ」と。

以上のほか埼玉郡誌に現存する古墳としては琵琶・中の山（今三塚と称す）真の山、愛宕山ボッチ山と称せられるものがある。さらに現在はすでに開墾されて痕跡をとどめていないが古墳としての記録の存するもの約二十三あり、その記録に残されず、取り崩された古墳も数多くあった事であろう。

前玉神社の東南方六〇〇米ほどのところに「百塚」という地名があり、また遺物の出土された記録もあるがいまは知らしまものは知られない。

このような武蔵国ないし関東でも珍らしい大規模な古墳群の存在は、まに不朽語るものであろう。思うに往昔 群盗を極めた国造の何代かにわたる一族を中心とした墳墓であるとしか考えられないのである。

日本古墳文化の発達した地域は九州、畿内関東であってなかでも武蔵野の行田はその大きさと数において主たるものである。

これは

古墳時代は荒川や吉野川の河岸には舟による水運がひらけ、稲作に適した高い古代文化が開けていたためである。

武蔵野の歴史時代への発展はこの古墳文化と云われる豪族文化の発展に伴ない地域的に村落が開発されていったところにはじまる。

武蔵野にも豪族政治をのった古代農耕文化と云われるものが六世紀以後開花したこの文化は、部落単位の豪族の文化とも考えられ、西から伝えられた高度の生活技術を持っていた。それは政治に富と権力をもつ豪族を育て死後を祀る墓上の古墳を築すようなこの社会を発展させていった。この時代の武蔵国内地方にこの豪族の統一者の中から大和朝廷が興来、その勢力が神以て来た。朝廷は勢力拡大を図るのに在地の豪族を勢力と富の強弱を区別に国造又は県主に任命した。（武蔵国では当時那珂郡

国造　兄多毛比命と　胸刺国造　狭知直とがあった。兄多毛比命は荒川を中心に東京の北東部から埼玉県にかけて発展していた豪族でありこの指導者と思られる一族であり、出雲国の系統をひく有力な豪族で大己貴命を祭神とする大宮氷川神社はこの氏族の氏神であると考えられる。

前玉神社は、埼玉郡の故地の中心に近かく鎮座し、延喜式内神名帳の武蔵国埼玉郡西座の中の「前玉二社」とあるのに該当するのが通説の様である。前玉神社を祀ったものが武蔵国造の一族であったと云う事は、先ず間違いないことと云わなければなるまい。とすればこの前玉神社の一座は氷川神の分キ女マを祀ったと云う推測も充分可能であると思われる。前玉神社の祭神二座のうち一座が氷川神社の幸魂を祀ったものであるとして先ず問題としたいのは前玉神社と古墳との関係についてである。

「田島宮司」によれば

もともと神社の社殿も古墳の下にあったのであるが、近年富士信仰の盛んとなった頃に古墳とはなれずに小高い山の上に社殿を移して、富士浅間社を祠ったものであろうと云う

現在は古墳の中腹に小社があり、祭神として「木花開耶姫」を祀り、浅間社の額を掲げてある。

富士信仰の盛んになったのは、近年以降のことであるから、過去においてその社殿は平地に在り、おそらく古墳を祭祠するような位置に在ったのではないかと想像される。

即ち 前玉神社の一座は、元来この古墳に、葬られた人を崇めてこれを祭ったものと解したいと思われるのである。

引用文献資料

埼玉県地名誌　並塚一三郎　北辰図書

武蔵国式内社の歴史地理　菱沼　勇　永育社

武蔵野　桜井正信　社会思想社

埼玉人物小事典　小野文雄　埼玉県人物小事典刊行会

埼玉の歴史　小野文雄　吉泉書院